

EXCELLENT & DYNAMIC

2021年度 決算概要

2022年6月14日

取締役専務執行役員
管理本部長
豊原 浩



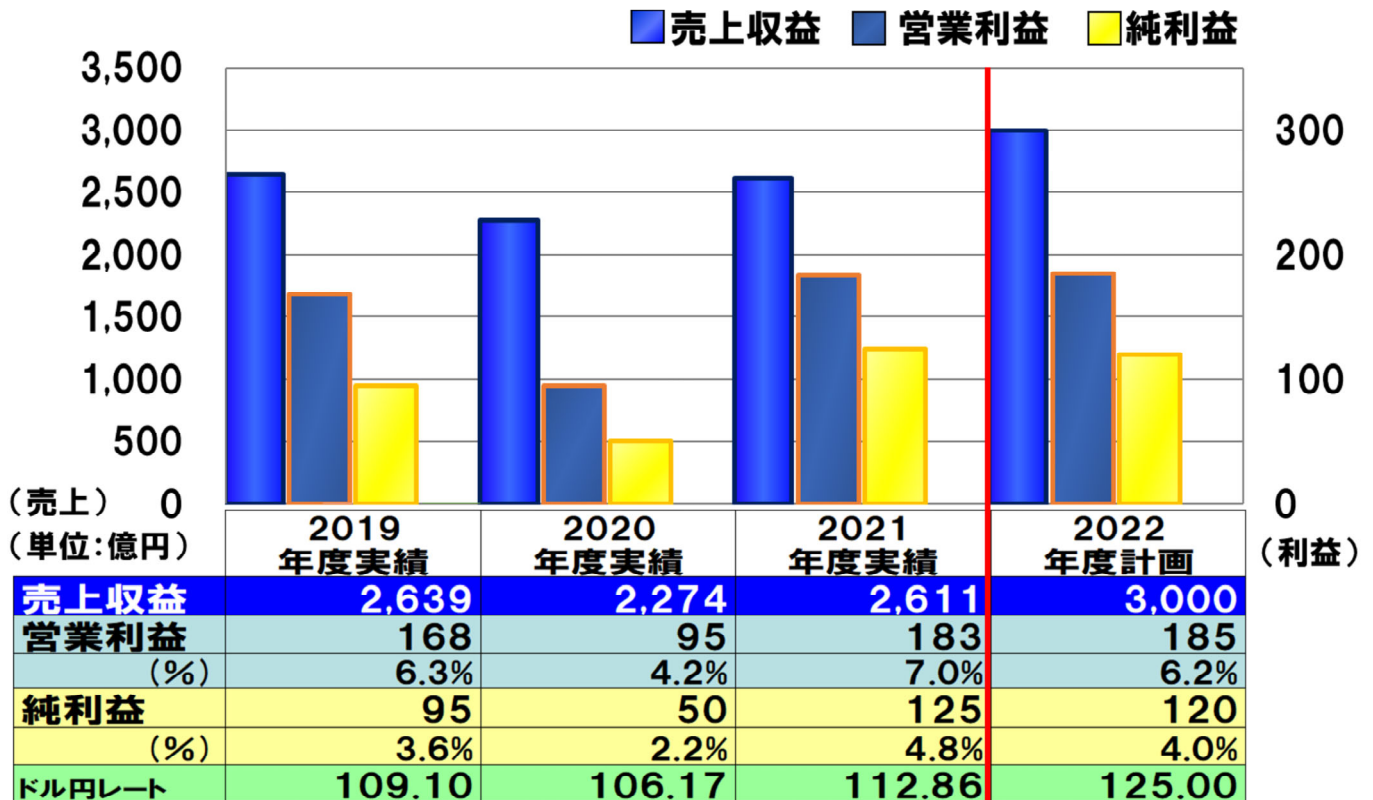
金額は億円未満を四捨五入しております。
数値はIFRS基準にて表示しております。

EXEDY
株式会社エクセディ

株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

1 | 19

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の決算概要、および2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の見込についてご説明申し上げます。



【営業成績】

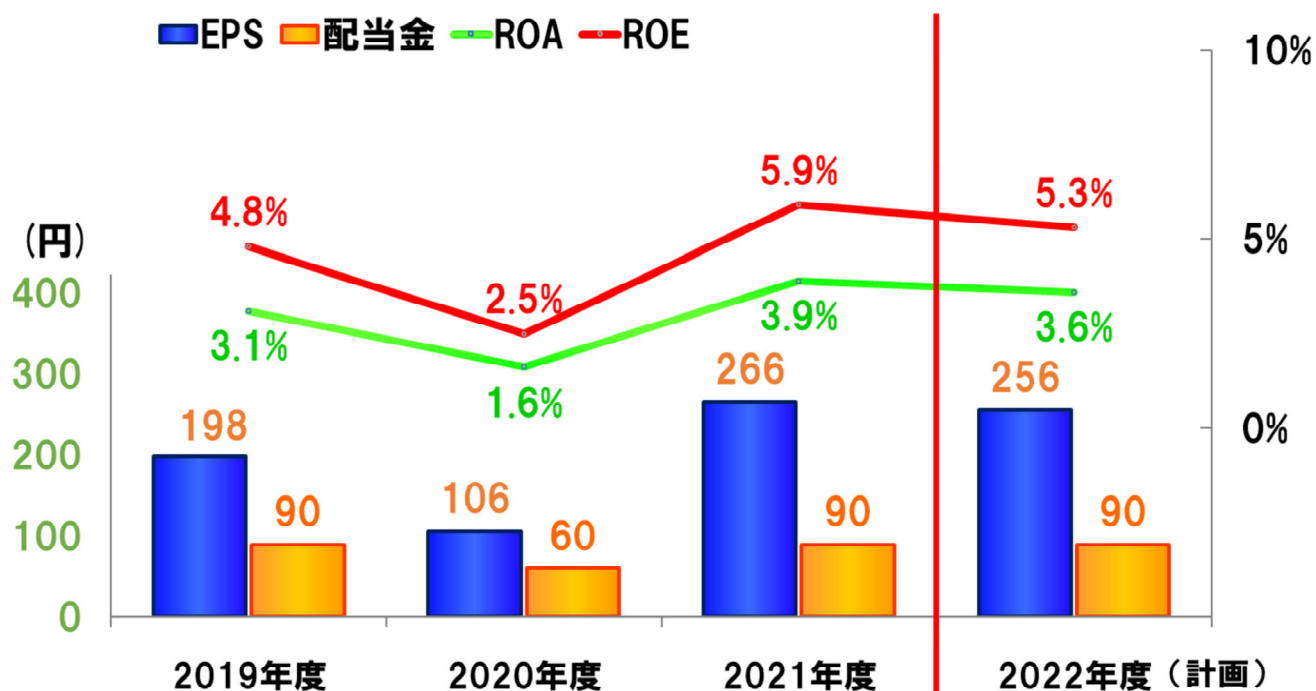
連結売上収益、営業利益、純利益の推移でございます。

2021年度は、国・地域によっては新型コロナウイルス感染症再拡大によるロックダウンや緊急事態宣言が発令されたものの、経済活動は一定の回復を見せており、売上収益は前連結会計年度比14.8%（337億円）増の2,611億円となりました。

利益面では、売上収益の増加に加え、前年度メキシコ子会社における生産設備の減損損失47億円を計上した影響により、営業利益は前連結会計年度比92.7%増の183億円、純利益（親会社の所有者に帰属する部分）は同150.4%増の125億円となりました。

2022年度においては、直近のロックダウン影響はあるものの、中国におけるAT製品の増産を計画しており、また、日本及び北米での受注回復を見込み、売上収益は2021年度比14.9%（389億円）増の3,000億円、営業利益、純利益（親会社所有者に帰属する部分）についてはそれぞれ185億円、120億円を予定しております。

2020年度対2021年度、2021年度対2022年度の利益増減要因については後ほど説明させていただきます。



【指標推移】

ROA、ROE及び1株当たり利益（EPS）、配当金の推移でございます。

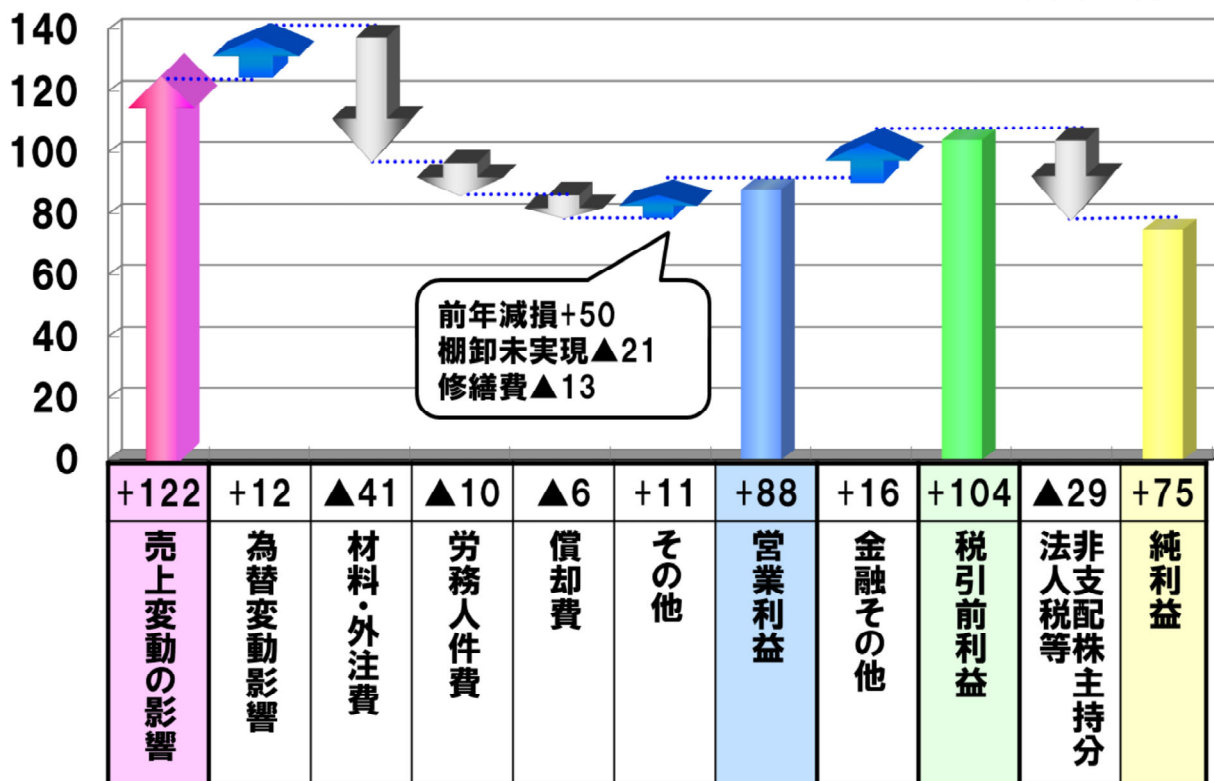
2020年度は減益のため配当を1株当たり年間60円といたしましたが、2021年度は増益により2019年度と同様の90円とさせていただきます。

2022年度は若干利益は減少の見込みですが、1株当たり年間90円とさせていただきます予定でございます。

利益増減要因 (21年度実績 vs. 20年度実績)

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位: 億円)



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

4 | 19

【利益増減要因 (21年度実績vs20年度実績)】

2021年度対2020年度の利益増減要因でございます。

コロナウィルス感染症の影響からの回復による売上収益増加により営業利益は増加となっております。

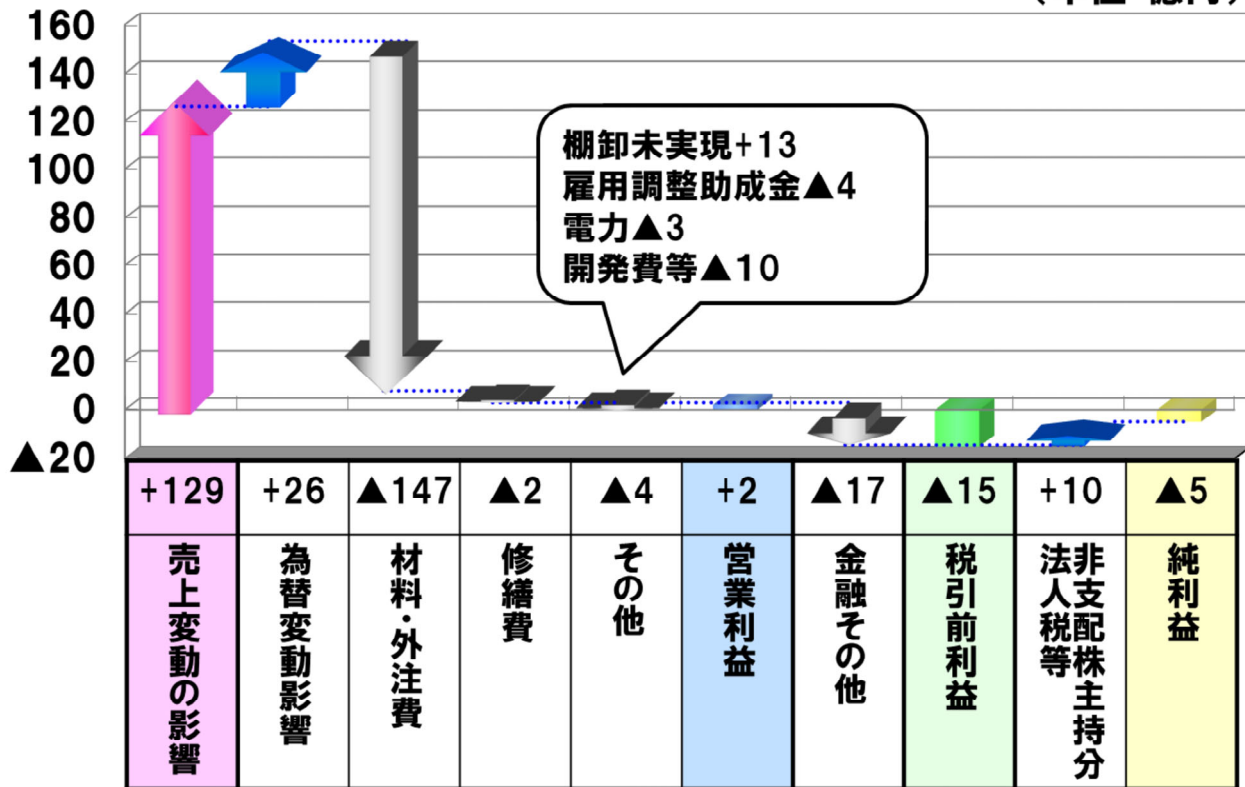
また、2020年度メキシコ子会社の減損損失47億円を計上しましたことも、前期比では増益の要因となっております。

一方、素材（鋼材・樹脂など）の市況の高騰による材料費の上昇がありましたが、調達部門での抑制活動、営業部門によるお客様への売価転嫁交渉の結果、2021年度については利益へのインパクトをかなり抑えることが出来ました。

その他、補修用部品の販売子会社における在庫が販売の回復に伴って増加に転じたことから、未実現利益の消去が減益方向で効いており、また、2020年度に絞り込んでいた修繕費等の諸経費について、2021年度に計上するなどの減益要素はありますが、売上増加の影響が大きく、88億円の営業利益増加となりました。

利益増減要因 (22年度計画 vs. 21年度実績)

(単位:億円)



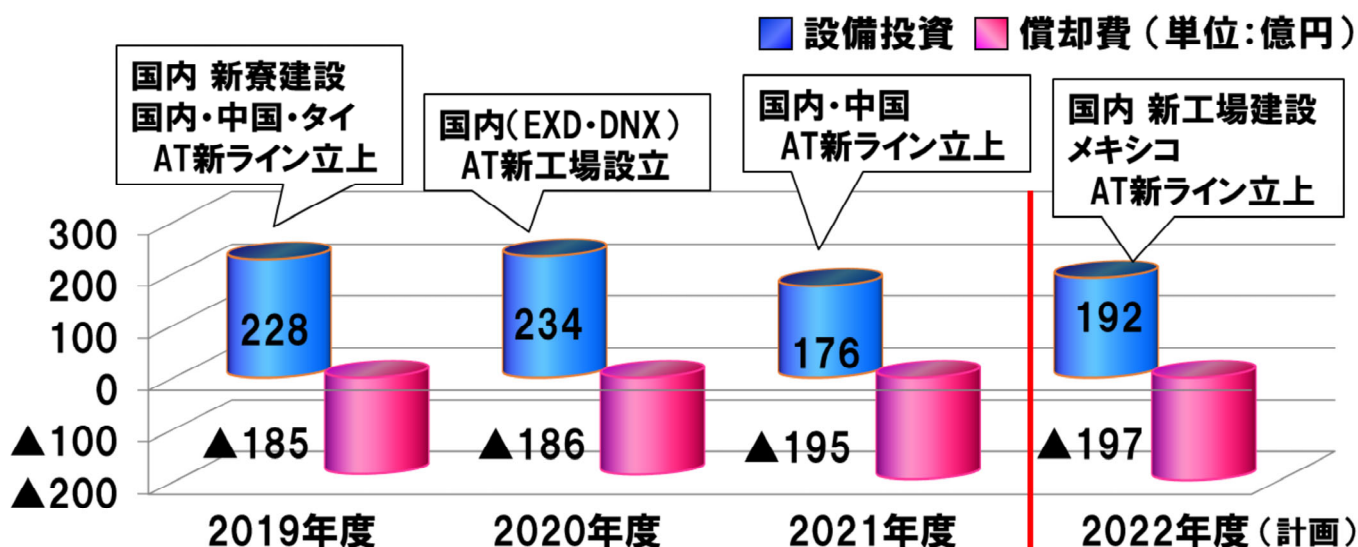
株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

5 | 19

【利益増減要因 (22年度計画vs21年度実績)】

2022年度計画対2021年度実績の利益増減要因でございます。

2022年度については、売上収益増加の影響に加え、円安見込みによる海外拠点での相対的な収益増加影響、昨年度利益を押し下げる影響となっていた棚卸未実現の控除を今期は見込んでいない等の増益要因はあるものの、素材の市況につき2021年度水準から更に上昇することを見込んでおり、一部はお客様への転嫁により負担をお願いするものの大幅な減益方向となり、営業利益は2億円の増加にとどまります。この結果、営業利益率は7.0%から6.2%に低下致します。



	投資	償却	投資	償却	投資	償却	投資	償却
AT	180	133	166	137	147	144	121	146
MT	35	34	61	32	18	35	58	38
その他	13	18	7	17	11	16	13	13

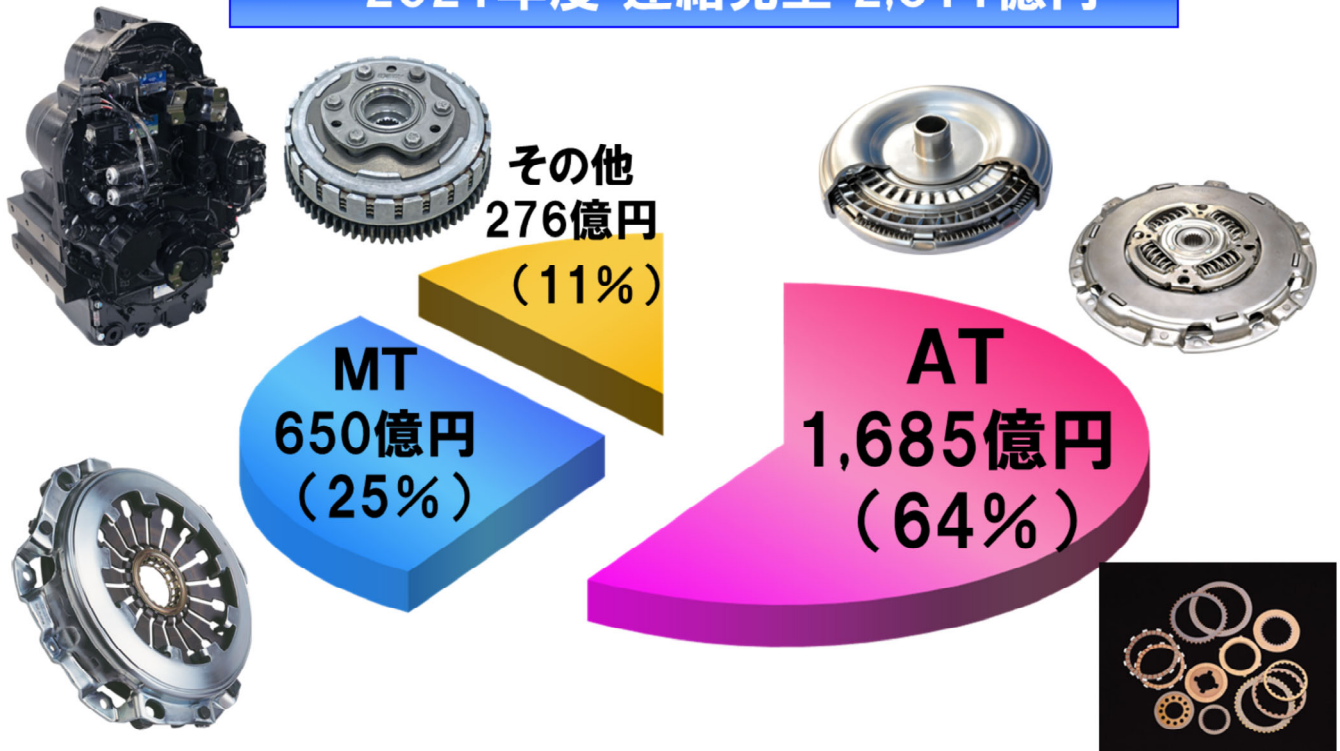
【設備投資】

設備投資と減価償却費の金額推移でございます。

2021年度においては、主に中国及び国内拠点での増産用設備（生産ライン・プレス設備）176億円の設備投資を実施致しました。減価償却費195億円以内の投資となりました。

2022年度においては、国内の新工場建設及びメキシコでの新規ライン投資等により192億円の設備投資となりますが、減価償却費の見込額197億円以内となる見込みでございます。

2021年度 連結売上 2,611億円



【事業領域】

ここから、弊社グループの事業セグメントについて紹介させていただきます。

AT 2021年度 連結売上

1,685億円（64%）



低速ロックアップ
トルクコンバータ



プラグインハイブリッド
車用ダンパー



湿式クラッチディスク



クラッチアッシー

【AT事業製品】

弊社の事業セグメントの中で構成比率が最も高いのがAT（自動変速装置関連事業）でございます。

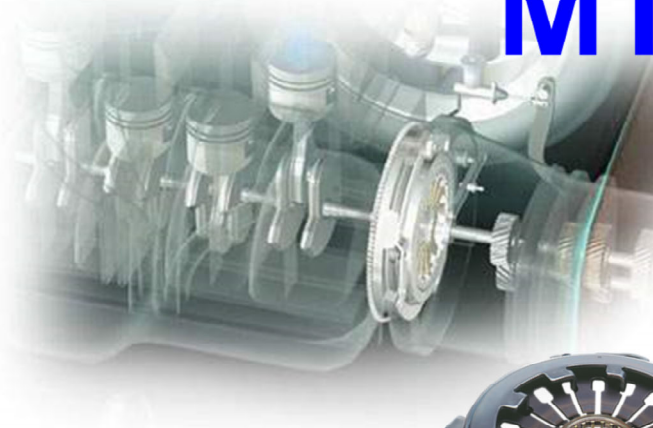
2021年度の売上収益は1,685億円、連結売上収益総額に占める構成比は64%です。

AT事業の製品は4輪のAT車で使用されるトルクコンバータ、ダンパー、クラッチ部品などでございます。

MT

2021年度 連結売上

650億円 (25%)



2マスフライホイール



ワイドアングルダンパー



クラッチカバー
(プルタイプ)



カーボンクラッチ

【MT事業製品】

もう一つの事業セグメントはMT（手動変速装置関連事業）でございます。
2021年度の売上収益は650億円、連結売上収益総額に占める構成比は25%です。

MT事業の製品は、4輪のMT車で使用されるクラッチでございます。

その他

2021年度 連結売上

276億円（11%）



2輪車用クラッチ



ラフテレーンクレーン用
トランスミッション

建設機械・産業車両用製品



トルクコンバータ

油圧クラッチ

【その他事業製品】

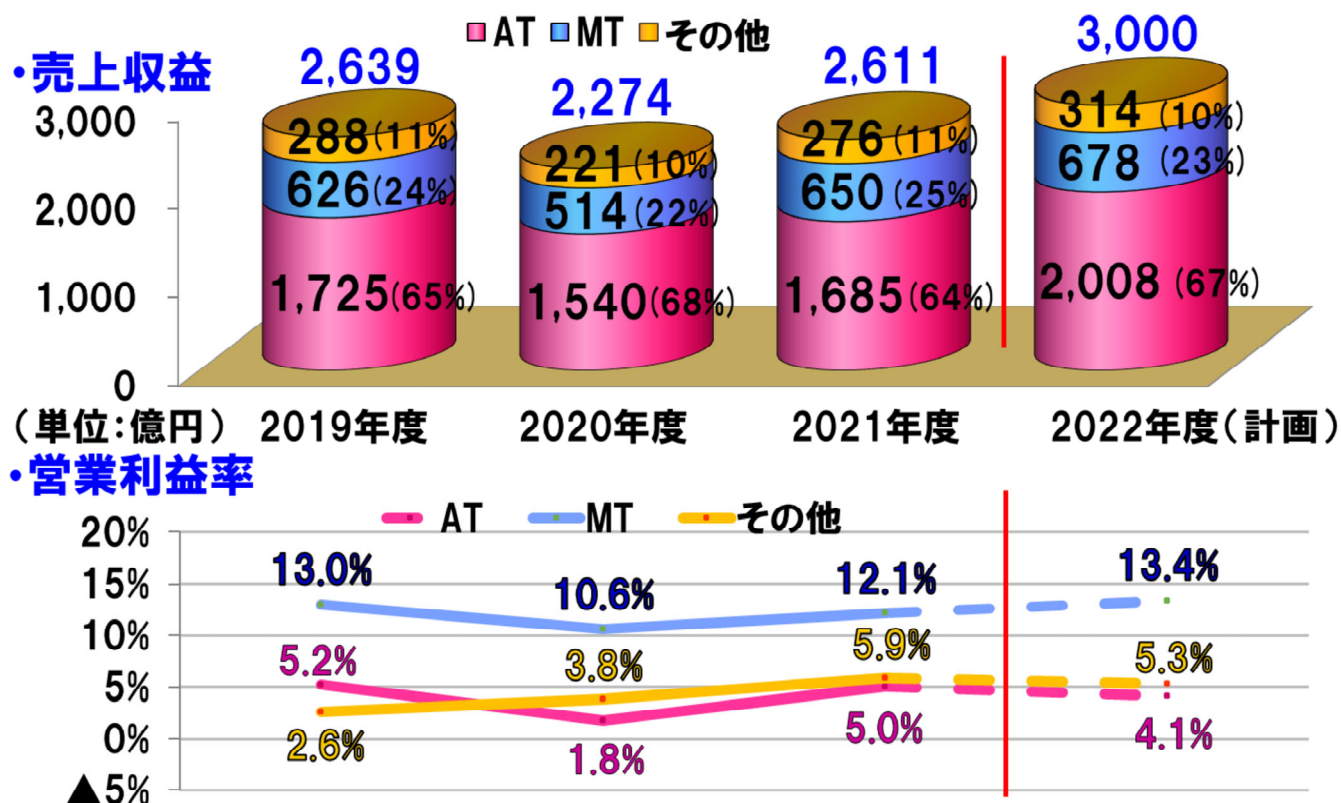
AT事業にもMT事業にも属さない事業をその他事業としております。

2021年度の売上収益は276億円、連結売上収益総額に占める構成比は11%です。

その他事業の製品は、建設用・産業用機械向けの駆動伝導装置や2輪車用クラッチ、運送業などを含んでおります。

事業別 損益推移

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

11 | 19

【事業別 損益推移】

事業セグメント別の売上高と営業利益率の推移でございます。

2020年度は全ての事業セグメントにおいて減収となりましたが、2021年度はコロナ禍からの回復により全事業セグメントで増収となりました。

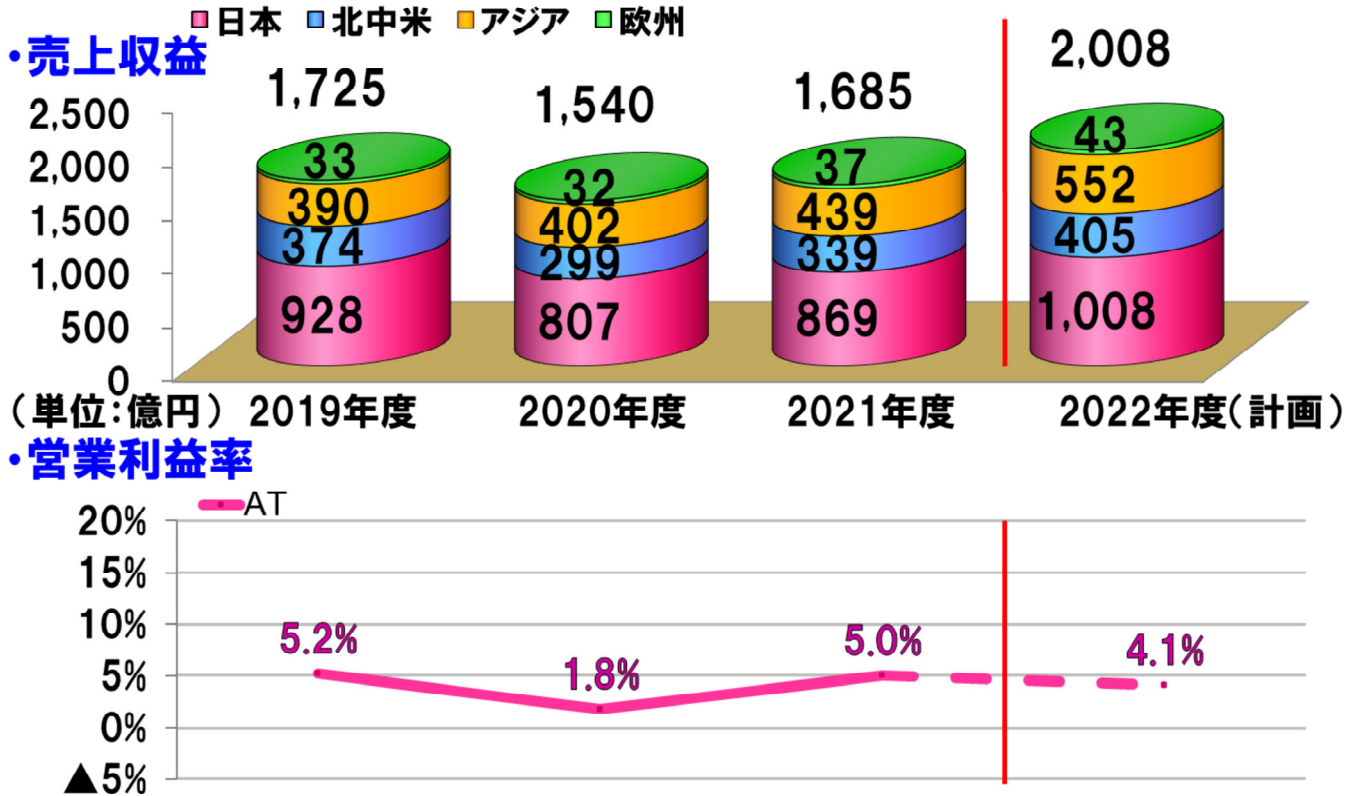
各事業セグメントともに、増収による利益増加となり、特にAT事業においてはメキシコ拠点における前期の減損の影響もあり、利益率は回復する形となっております。

2022年度においては、各事業セグメントとも2021年度からは増収となりますが、円安見込みによる海外現地通貨売上の換算による増加が含まれております。

それぞれの事業セグメントの2022年度の売上収益、利益率の考え方については、後ほどそれぞれのセグメントのページで説明させていただきます。

売上収益変動内訳 AT

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来



【売上収益変動内訳 AT】

AT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものがございます。

2021年度においては、全ての地域でコロナウィルス感染症からの回復により増収となりました。

増収及び、2020年度のメキシコ子会社で計上した減損損失の影響により利益率は上昇致しました。

2022年度においては、アジア(主に中国)の増産、及び日本、北中米での販売回復により、引き続き全地域での増収を見込んでおります。

利益については、売上の増加があるものの、素材市況の高騰影響により利益率は低下する見込みであります。

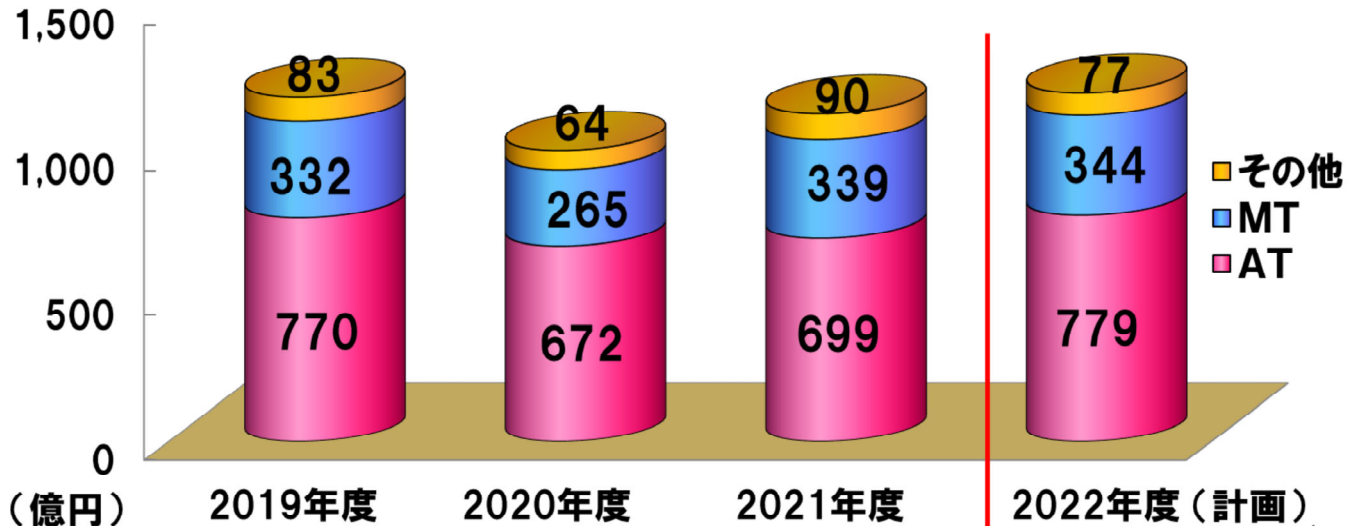
エクセディ (EXD)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位:億円)

期 間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 計画
売上収益	1,185	1,001	1,129	1,200
営業利益(率)	51 4.3%	27 2.7%	64 5.6%	35 2.9%
税引前利益(率)	92 7.8%	62 6.2%	109 9.6%	70 5.8%
当期利益(率)	80 6.7%	52 5.2%	87 7.7%	60 5.0%



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

13 | 19

【エクセディ (EXD)】

ここからしばらく、AT事業セグメントの主要プレーヤーである各社の業績推移をご覧ください。

まず、弊社エクセディでございます。

2021年度はコロナ影響からの回復により、2020年度対比で増収増益となりました。2022年度は2021年度対比増収を見込みますが、素材価格の高騰影響を受け、利益は減少する見込みとなります。

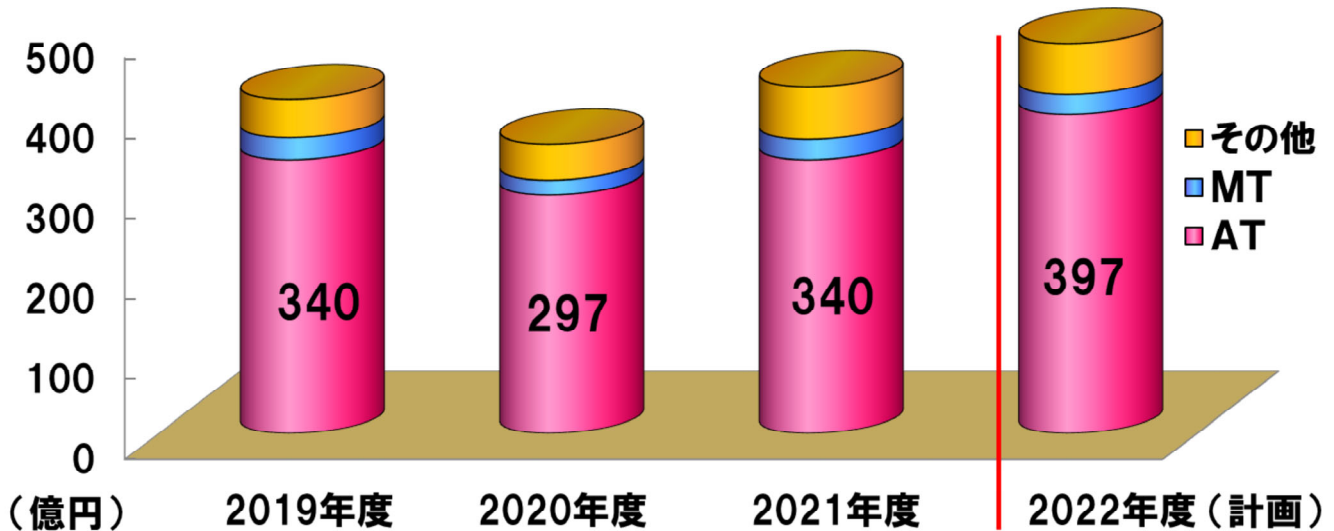
ダイナックス (DNX)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位:億円)

期 間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 計画
売上収益	417	360	432	485
営業利益(率)	34 8.2%	26 7.2%	39 9.0%	25 5.2%
純利益(率)	30 7.1%	19 5.3%	34 8.0%	20 4.1%



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

14 | 19

【ダイナックス (DNX)】

弊社グループ最大の子会社、北海道にあるダイナックスでございます。

EXDと同様、2021年度はコロナウィルス感染症からの回復により増収増益となりましたが、2022年度は増収にも関わらず素材市況の高騰による影響で減益となる見込みです。

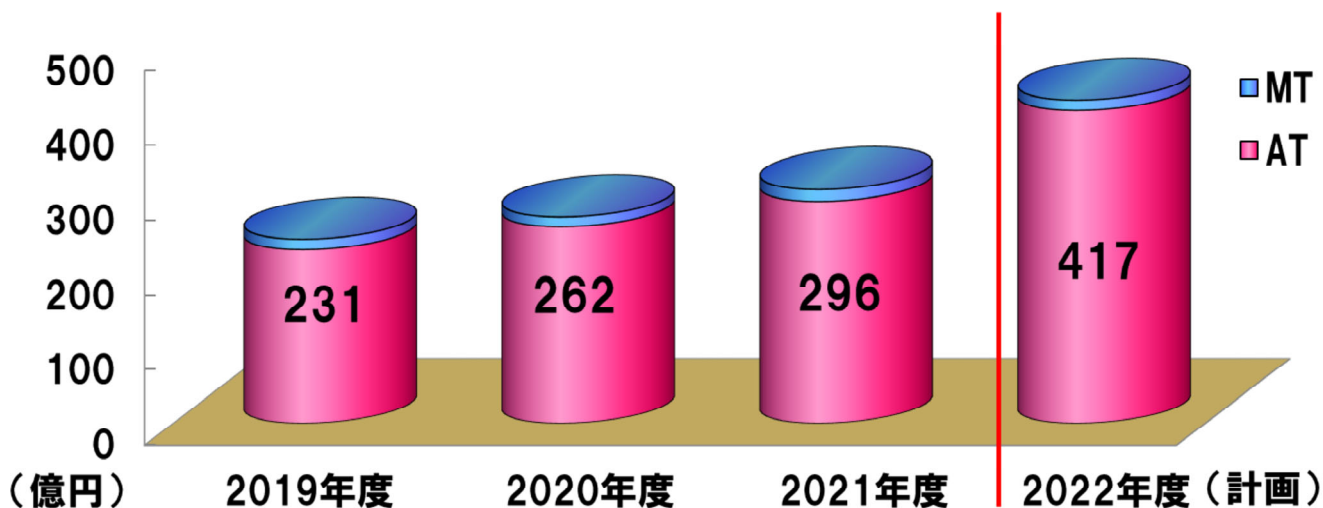
エクセディ ダイナックス 上海 (EDS)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(円貨:億円 外貨:百万円)

期 間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 計画
売上収益(外貨)	246 (1,568)	276 (1,764)	312 (1,774)	431 (2,215)
営業利益(外貨)	17 (111)	21 (136)	25 (141)	22 (113)
純利益(外貨)	9 (56)	13 (83)	16 (94)	14 (70)



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

15 | 19

【エクセディダイナックス上海 (EDS)】

中国、上海に所在するエクセディダイナックス上海でございます。

2022年度増産を計画しており、売上は拡大する見込み(※)ですが、素材価格の高騰及び販売構成の変化により利益は減少する見込みです。

※期初については、ゼロコロナ政策に基づくロックダウンの影響を受けておりますが、操業規制終了後は受注増大の見込であります。

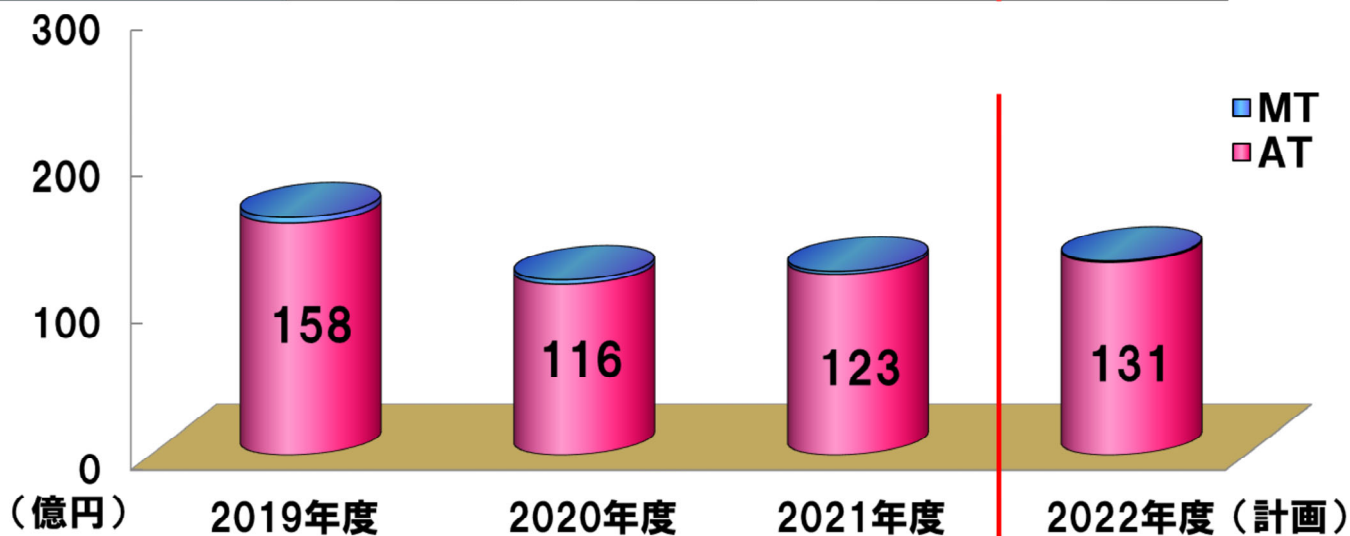
エクセディ ダイナックス メキシコ (EDM)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(円貨:億円 外貨:百万USD)

期 間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 計画
売上収益(外貨)	162 (149)	118 (112)	125 (110)	132 (106)
営業利益(外貨)	9 (8)	▲44 (▲42)	▲3 (▲3)	1 (1)
純利益(外貨)	3 (3)	▲31 (▲30)	▲3 (▲2)	0 (0)



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

16 | 19

【エクセディダイナックスメキシコ (EDM)】

メキシコ、アグアスカリエンテスにあるエクセディダイナックスメキシコです。

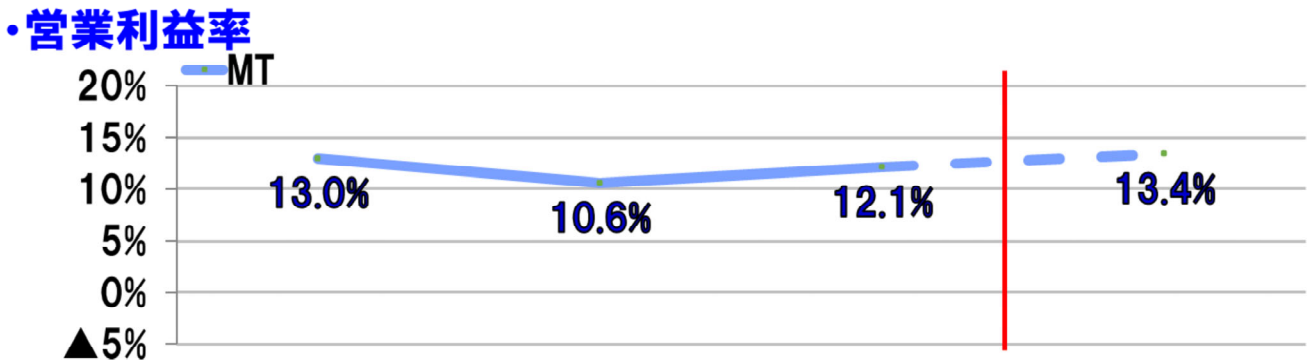
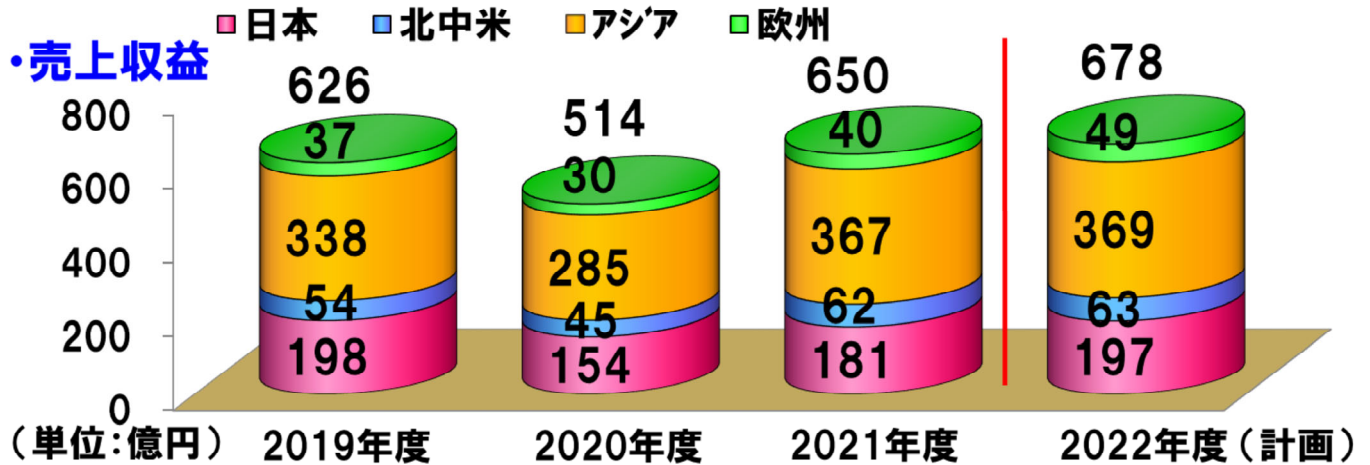
2020年度には、主要顧客であるFORD向の受注が低下し、短期で回復の見込がないと判断したことから、生産設備について47億円の減損損失を計上しました。

2021年度には若干の回復はあるものの、不要資産の除却などにより赤字となりました。

2022年度について、新規モデルの立上げはありますが、現地通貨ベースでは減収、為替レート（円安）の影響により売上は増加の見込みです。

売上収益変動内訳 MT

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

17 | 19

【売上収益変動内訳 MT】

MT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものがございます。

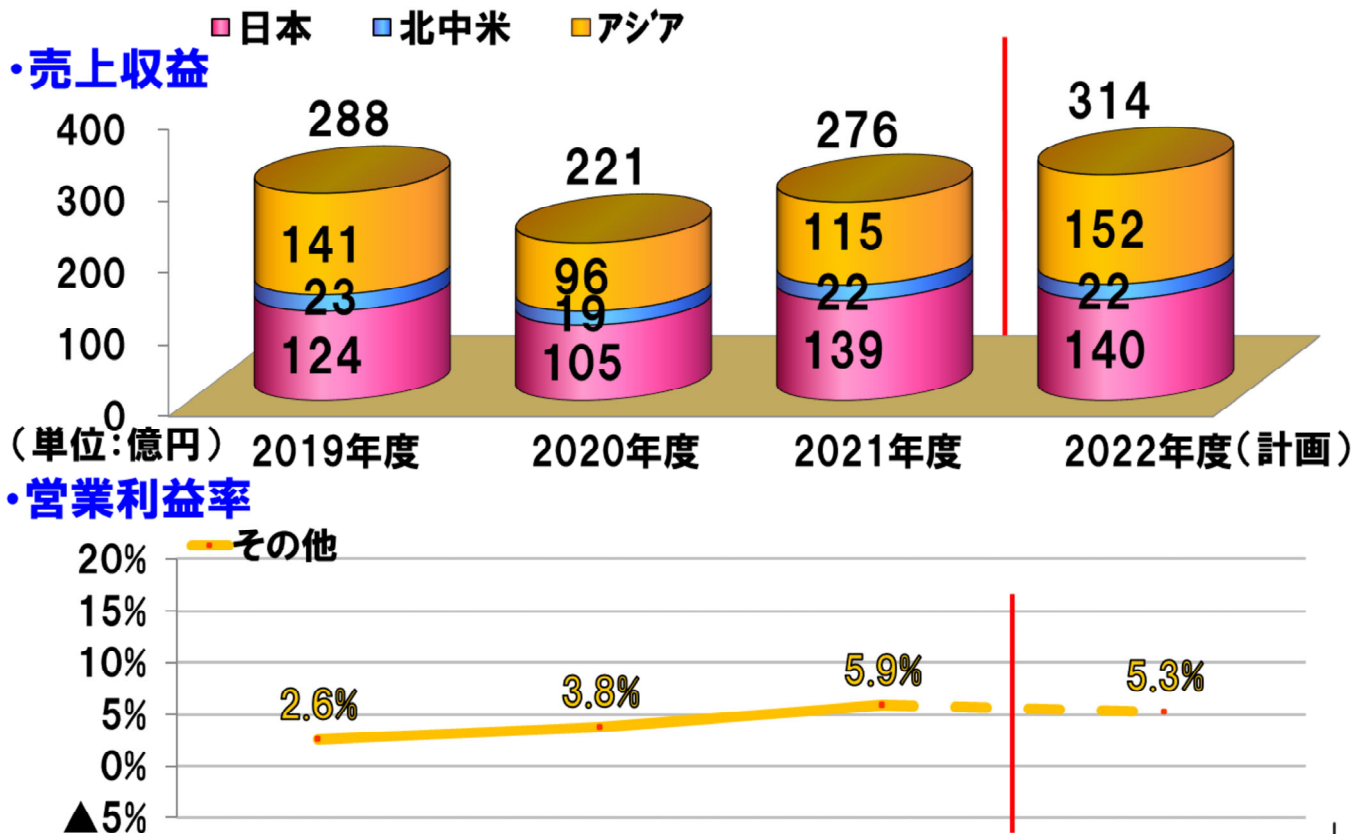
2021年度においてはコロナウィルス感染症影響からの回復により、アジア地域を中心に全ての地域で売上収益が増加しました。

2022年度においては、2021年度対比では微増となっておりますが、日本以外の地域については為替レート(円安)による影響を受けており、現地通貨ベースでは減収となっております。

利益面においては、売上収益は2021年度と同等の水準ですが、2021年度に主にMTの販売会社の在庫増加に伴い、利益を減らす方向で効いていた未実現利益の消去を2022年度については見込んでいないことから、利益率は上昇して13.4%となる見込みです。

売上収益変動内訳 その他

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来



株式会社エクセディ 管理本部 | 2022/6/14

18 | 19

【売上収益変動内訳 その他】

その他事業セグメントの売上収益を地域別に見たものでございます。

2021年度においては他のセグメント同様、全ての地域で売上収益が増加しました。

2022年度においては、アジアの二輪事業にて売上増加が見込まれるため、増収の見込みとなっております。

利益面に関しては、売上収益は増加するものの、素材市況の高騰による影響で営業利益率は5.3%へ低下するものと見込んでおります

ご清聴ありがとうございました。



以上、2021年度の決算概要、および2022年度の見込についてご説明申し上げます。
ありがとうございました。

なお、本資料以外にも下記の資料を公開しておりますので、ご覧ください。

- ・ 2021年度決算報告：弊社社長の久川より、中期的な数量見込や
長期的な取り組み内容などについてご説明
申し上げます。
- ・ EXEDY NOW : 連結・単体の財務諸表やグループ各社の財務
数値などを記載したデータブックでございます。